

令和4年度木更津市社会教育委員会議第1回定例会 会議録

1 会議名 令和4年度木更津市社会教育委員会議第1回定例会

2 開催日時 令和4年5月13日（金）午後2時～4時

3 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室A1・A2

4 出席者名

委員：石渡勇斗、吉田信明、古川哲也、安藤順子、佐久間智之、鶴岡久美子
鶴岡俊之、吉田裕子、伊藤素子、佐々木洋子、地曳昭裕、内田慎一郎
熊本秀樹、白石和義（14名）

事務局：廣部昌弘教育長、秋元 淳教育部長、重城秋子教育部次長、
鈴木和代生涯学習課長、鈴木玲子係長、高石篤係長、石川浩美主任主事
（7名）

協議事項（2）説明のため出席

内海雅彦まなび支援センター所長、小高幸男文化課長、
松井 晋凶書館長、稲葉昭智郷土博物館金のすず副館長、
水越 学中央公民館長、小磯洋子資産管理課長

5. 協議事項

（1）各委員の選出について（別紙参照）

（2）令和4年度社会教育・生涯学習関係重点目標及び主要事業について

（3）協議「世代間交流・地域コミュニティについて」

（4）その他

6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人0名

7 資 料

令和4年度社会教育委員会議第1回定例会次第

令和4年度社会教育委員会議第1回定例会資料

令和4年度重点目標・施策

8 会議の内容

事務局 ただ今より、木更津市社会教育委員の委嘱状交付式を開催いたします。
生涯学習課長 会議に先立ちまして、5月13日付で木更津市社会教育委員をお引き受けいただきました3名の方に委嘱状を交付させていただきます。

委嘱状授与—廣部教育長

介添え—秋元部長

名前読み上げ—鈴木課長

事務局 ありがとうございました。以上をもちまして委嘱状交付式を終了いたします。

事務局 ただいまより令和4年度木更津市社会教育委員会議第1回定例会を開催いたします。本日は、委員18名中、14名の出席であり、欠席は4名であります。従いまして、社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、会議は成立しております。なお、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが本日の傍聴人はおりません。以上報告いたします。

事務局 それでは、始めに、内田議長からご挨拶いただきます。

内田議長 みなさんこんにちは。委嘱状を受けとられた3名の方につきましては「はじめまして」ということで、よろしくお願ひします。

私は木更津市の社会教育委員として、正確な年数は覚えておりませんが、10年以上は活動をしているのではないかと思います。木更津市PTA連絡協議会の活動に関わっていきまして、会長を卒業した際に社会教育委員となり、少し間を空けて再び委員となり、現在に至っているところであります。まだまだ「社会教育とは何か」と分からないことが多く、恥ずかしい限りですが、皆さんと一緒に木更津市の社会教育について議論をしていければと思います。

昨年からの社会教育委員の皆さんは、任期の2年目となりました。昨年度末に行われた社会教育委員会議にて、今後協議していくテーマを決めたところであります。後ほど「世代間交流・地域コミュニティについて」本日の会議時間の半分くらいを使って、皆様方から色々ご意見を賜れたらと思います。昨年3月の会議にはいなかった方もいるかとは思いますが、教育委員会にフィードバックして木更津市の社会教育に活かしていけるような話ができたらと思っております。熱心な協議をすることによって木更津市を盛り上げていければと思います。まとまりませんが以上をもちまして挨拶とさせていただきます。

事務局 続きまして、廣部教育長よりご挨拶申し上げます。

廣部教育長 皆さん、こんにちは。教育長の廣部でございます。早いもので1年たってしまいました。本年度もどうぞよろしくお願ひいたします。本日は平日の午後という事で、大変ご多用のなか、また悪天候の足元の悪い中をお集りいただきありがとうございます。

委員の皆様方にはこの定例会のみならず、各地域各お立場で木更津市の教育に関しまして、ご意見・ご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症がまだまだ収まらず、連休が明けてこれからどうなっていくのか非常に心配はつきません。先程学校関係で新型コロナウイルス感染症のデータが上がって参りました。3月感染者数が、ひと月で小学校が303名、中学校が32名、教員31名でした。それが4月になると、小学校が107名、中学校が61名で計171名、教職員が10名ということで、ほぼひと月で半減してき

ているようです。しかし安心・安全メールやらづナビ等で周知している数を見ると、昨日は12名でしたので、10名から30名くらいで、まだまだ推移していくのかと思います。新型コロナウイルスの流行も3年目を迎えました。コロナ前からも地域の衰退化がずいぶんと叫ばれていましたが、この新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の衰退化が一層進んでいるのではないかと強く感じております。教育委員会では新しい事業として、令和4年度から学校運営協議会を始めました。これは学校評議員制度を一步進めたもので、本年度は富来田小中学校をモデル校としています。まちづくり協議会と学校運営協議会が連携して、学校を核として各地域に新しいつながりを作っていきたいと考えているものです。できれば学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールですが、全市に広めていきたいと考えております。各地域・各お立場でご支援ご協力いただければありがたいと思います。まちづくり協議会も、ご承知のとおり残すところ木更津第二中学校地域となりました。全ての地域でまちづくりの体制を整えて、新しい気持ちで取り組んで参りたいと考えております。またご協力をいただけるとありがたいと思います。

さて、本日の会議ですが、新しい委員の方々を3名お迎えしました。3名の委員の皆様につきましては前委員の残任期間が任期となります。本日の会議につきましては、まず本年度の社会教育関係事業について関係課・機関より説明をし、その後世代間交流・地域コミュニティについてご協議をいただくこととなります。地域コミュニティの今後というのは、本市にとりましても大変重要でありますので忌憚のないご意見を頂戴して、本市の教育行政に活かして参りたいと考えております。ぜひ皆様方のご協力をよろしくお願いします。以上です。

事務局 次に、教育委員会事務局の職員を紹介いたします。

はじめに、廣部教育長でございます。秋元教育部長でございます。重城教育部次長でございます。

職員紹介／自己紹介

続いて委員の皆様の自己紹介をお願いいたします。石渡委員からご着席の順番にお願いいたします。

委員自己紹介

事務局 それでは会議に入ってまいりたいと存じます。今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会議運営規則第2条第4項により議長をお願いいたします。それでは、内田議長よろしくをお願いいたします。

内田議長 それでは進めさせていただきます。

本日は皆様のお手元にお配りしております第1回定例会次第にて進めさせていただきます。まず協議事項(1)各委員の選出についてですが、社会教育委員に対していろいろな会議の代議員、委員の推薦依頼がきております。例年、任期途中の方はそのまま続けていただいております。それ以外の委員の選任について、事務局に案があれば、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

異議なし

異議がございませんでしたので、事務局より提案していただきたいと思っております。

事務局 それでは事務局よりご提案させていただきます。

今、議長よりお話がありましたとおり、各協議会・審議会等の委員の選出につきましては、各協議会・審議会等の任期と社会教育委員会の任期にずれがございます。任期中は、同じ方に継続していただくことでご了解をいただいておりますので、次のように提

案させていただきます。

千葉県社会教育委員連絡協議会代議員は、慣例により議長に就いていただくこととなっておりますので、内田議長にお願いしたいと存じます。任期については1年でございます。

君津地方社会教育委員連絡協議会監事につきましては、鶴岡俊之委員にお願いしたいと存じます。任期は令和5年3月31日までの2年間となっておりますので、残任期間をつとめることとなります。

木更津市図書館協議会委員につきましては、令和5年6月30日までが任期となっておりますので、残任期間を伊藤素子委員にお願いしたいと存じます。

木更津市青少年問題協議会委員につきましては、千代倉順委員にお願いしたいと存じます。任期は令和4年6月1日から令和6年5月31日までとなっております。

木更津市生涯学習推進協議会委員につきましては、熊本秀樹委員にお願いしたいと存じます。任期は令和4年4月1日より令和6年3月31日までの2年間となります。

以上です。

内田議長 事務局より提案がありました。本日欠席の委員につきましては、あらかじめお諮りしています。それぞれの委員について皆様にお諮りいたします。いかがでしょうか。

異議がなければ、拍手をお願い致します。

拍手

内田議長 ありがとうございます。それでは、新たに委員になる皆様、よろしく願い申し上げます。

続きまして、(2)「令和4年度社会教育・生涯学習関係重点目標及び主要事業について」です。各担当課より説明をお願いします。

各課長、館長等説明

- ①生涯学習課 ②まなび支援センター ③文化課
- ④図書館 ⑤金のすず ⑥中央公民館 ⑦資産管理課

内田議長 ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問がありますでしょうか。

地曳委員お願いいたします。

地曳委員 定例会資料の17ページに二十歳を祝う会の実施方針が書かれています。民法で成人年齢が18歳に引き下げられ、世の中は18歳になるべく成人の認識を高めてもらいたいと一生懸命に努力をしているわけです。国は18歳に成人の意識を高めたいと言っている一方で、木更津市では成人式を祝うのが二十歳ということになると、整合性にずれがあるのではないかと感じます。この懸念を払拭するような、20歳に二十歳を祝う会をやるんだという考え方や大きな理由、動機付けをお教えいただければ有難いです。

内田議長 生涯学習課長をお願いします。

生涯学習課長 18歳に成年年齢が変わった際、この件については社会教育委員会でも令和2年度に一度報告させていただいております。成年年齢が18歳になるところで、成人式を18歳にするか20歳のままで維持するかということについて、当事者である当時の成人式の実行委員の方達にアンケートを取り、近隣市の状況なども踏まえて、最終的に20歳のまま成人式を行うと決定いたしました。地曳委員のおっしゃる様に18歳に成年年齢が変わって、法的に18歳でできること、18歳に課せられる責務が実際に加わったというところは重々承知しております。そのことについて当事者の方達に、そういう責務があるのだということを周知していくことはとても重要な責務だと理解しております。し

かし、成人式を市が行うところの意味合いとしては、おそらく当事者にとっては、一生に一度晴れ着を着て同窓生と会うといった楽しみが第一義ではないかと思います。またアンケート結果などによっても18歳の成人の日周辺は、ちょうど受験シーズンと重なることが懸念事項としてあげられていました。また18歳を成人式の対象とし実施することとなりますと、初年度の成人式が3学年を一度にまとめてやることとなり、式典会場の確保が難しいなどの運営上の問題等もあり、総合的に判断して20歳のままとさせていただきます。今まで18歳には出来なかったことが出来るようになったことについては、消費生活センター等所管課が高校などにチラシを配布したり、ホームページで啓発したりと、様々な形で周知・啓発活動を行っております。成人式の所管課は生涯学習課ではありますが、成人式を20歳のままで行うということについてと、成人の責務についての議論を切り離して考え、該当する子どもたちが一番参加しやすい状況を優先したことが、こちらの判断の基準となっています。

内田議長 地曳委員、いかがでしょうか。

地曳委員 判断の基準が2年前の令和2年のアンケートになっていることが気にかかります。令和4年4月施行ですので、2年前は18歳と20歳に関わる社会の大きな流れがまだ認識されてなかった頃なので、タイムラグがあるのではないかと思います。私としては、きちんと18歳が成人だけでも、木更津市は二十歳で成人をやる、という大意を構築すれば良いと思います。皆さんに周知してそれが大義として納得できるものであれば良いと思うのですが、18歳成人と二十歳を祝う会の整合性をしっかりといただければと思っております。2年前の18～20歳を迎える人の考え方と、今とでは社会的な状況や動きも違うのではないのでしょうか。

内田議長 例えば他の地区で、同じように二十歳を祝う会を18歳でやるのか、20歳で祝うのか等は、どうなっていますか。

生涯学習課長 県内で18歳で成人を祝う市町村はございません。全国的に見ても、おそらく1つか2つではなかったかと思います。18歳成人式を掲げたところでは、当事者から反対の声が上がっているという報道を拝見しました。ただ、地曳委員がおっしゃる様に判断を2年前にしたという事で、今とは違うんじゃないかというご指摘は、ごもっともです。今の新成人の人達に18歳の方がよかったかというお話を聞いたわけではなく、また社会の状況がどうなのかということについても、現在の状態を精査しているわけではありません。2年前の決定に基づいて、私共は動いておりますので、その辺りはご意見として承って、今後またそのような声がたくさんあるようでしたら検討していくという事になるのではないかと思います。

内田議長 それについては検証しながらという事で、地曳委員よろしいでしょうか。

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。この後の時間の都合もありますので、この案件は終了とさせていただきます。では次の議題の前に、遅れていらした方に自己紹介をしていただきたいと思います。伊藤委員、お願いします。

伊藤委員 **自己紹介**

内田議長 はい、ありがとうございます。

それでは、続いて(3)協議「世代間交流・地域コミュニティについて」ですが、昨年度最後の定例会の際に、こちらについて5月に皆様方と協議をしたいとお伝えしました。事務局より協議の進め方について改めて説明をお願いします。

事務局 事前に委員の皆様へ送らせていただいた資料の中に、今年1月から2月にかけて、今

感じている課題を提出して頂いたものから、今回の「世代間交流・地域コミュニティについて」に関する意見を抜粋したものを印刷し資料として送らせて頂きましたので、思い出していただいたかと思えます。本日の協議ですが、何か結論を導き出すというより、自由な意見交換の場として「世代間交流・地域コミュニティについて」の現状や課題を共有していこうというものです。委員それぞれのお立場でお気づきのことですか課題と感じていることなどをお話いただけると幸いです。また「世代間交流・地域コミュニティについて」新たな取組み案などがありましたら、そちらについてもご提案いただけるとありがたいと思えます。

内田議長

ありがとうございます。それでは始めていきたいと思えます。

配布した資料には、既に辞職された委員の意見も掲載されておりますが、頂いた意見を参照して、忌憚のない意見をいただきたいと思えます。

いかがでしょうか。古川委員からお話いただけないでしょうか。

古川委員

今回「世代間交流・地域コミュニティについて」意見を求められたところでありますが、この件につきましては私の個人的な経験からお話をさせていただきます。私は勤務地は木更津市ですが、住まいは東京の●●●という所です。●●●は巨大な団地群でして、15000世帯が住んでいます。その中でいくつかのブロックになっており、私の住んでいるところは800世帯、14棟のブロックとなっています。家庭を持ってからずっとそこに住んでいるのですが、非常に住み心地が良いところです。なぜ住み心地が良いかというと、自治会が非常に機能しているからです。自治会の入会は任意ですが、加入率は7割となっています。基本的には地域に住んでいる子ども達の親世代とシニアが中心となって、年間の活動計画をたてています。具体的には夏祭り、防犯パトロール、秋の文化祭、年に2回程度の団地内の一斉清掃です。他には冬の火の用心等のパトロール、防災訓練活動を行います。また、非常食の備蓄や車いすで生活している人の避難の方法であるとか、あるいは近くの消防署から応急処置のレクチャーを受ける等、そういう活動を年間を通して自治会がやっております。私が今回の「世代間交流・地域コミュニティについて」考えた時に、このような自分の経験が浮かび、お話をさせていただきました。木更津市は市域が広く、それぞれの地区で自治会があるのかどうかは分かりませんが、そういった違いを踏まえて、どうつなげていくのかということ、これから皆様方との議論を踏まえて、考えていきたいと思っております。

内田議長

ありがとうございます。それでは鶴岡（俊）委員ご意見はございますか。

鶴岡（俊）委員

このテーマは正に、公民館のためのテーマであり、公民館が果たすべき一番の役割であると思えます。先程公民館長が説明をされた定例会資料の29ページに、公民館運営方針として、「あらゆる世代の居場所づくりと地域コミュニティ」と書いてありました。具体的に言うと、公民館が舞台となってこれらの「世代間交流・地域コミュニティ」を活性化するということになるわけですが、私は個人的には年に1回公民館で行われる文化祭がこれにあたるかと考えております。皆さんも何回も見学されたことがあると思えますが、各公民館の文化祭は各地域の特色がとてよく出ている行事だなど、つくづく感心します。特に私が印象に残っているのは、鎌足公民館です。鎌足公民館では、社会教育関係団体以外にも、地元で防災活動の核となっている消防団が団服を着て受付をしていました。それを見て私はびっくりしました。社会教育関係団体だけでなく地元の消防団の方、それからもちろんPTAとか相談員、補導員といった青少年健全育成の団体や、自治会の皆さん、社会福祉団体、赤十字等そういった団体も一堂に会して、いわゆ

る世代を越えて地域のコミュニティを作っているということが、文化祭から伝わってきました。本当に文化祭を見れば一発で地域の色がわかるのです。コロナ禍でここ数年なかなか文化祭が開催出来ない残念な状況となっていますが、昨日開催された公民館運営審議会では、今年度からそろそろ文化祭に取り組んでいったらどうかという意見も出ました。個人的には今回の「世代間交流・地域コミュニティについて」の実現に向けて大事なことだと思うので、今年度は文化祭がぜひ実施されるとよいと考えています。その際には社会教育委員の皆さんにも視察のお誘いがあるかと思いますが、もし今まで文化祭の視察に行かれてない委員の方がいらっしゃいましたら、ぜひ足を運んでいただき、このテーマの実現にいかにか公民館が力を発揮しているかについて、見ていただけたらと思います。

内田議長 ありがとうございます。公民館についてあげて頂いた吉田（裕）委員お願いします。
吉田（裕）委員 私が所属している保育グループこあらの会については、ほとんどの活動を公民館で行っております。しかし、コロナになってから緊急事態宣言、そしてまん延防止と続き、活動をしたくてもほとんど出来ない状況でしたが、最近やっと少しずつそれがなくなってきました。先日の家庭教育学級の活動でも子ども同士をなるべく近づけないように努めつつも、様子を見ながらこれぐらいは大丈夫かなというところで活動をさせていただきました。今日は中央公民館長がいらっしゃっていますが、コロナ禍の前と比べてサークル活動や公民館の主催事業等、現在どんな状況となり活動が戻ってきているのか伺いたいです。私も木更津市にとって「世代間交流・地域コミュニティについて」は公民館という場を通してやるのが良いやり方だと思っております。私は、公民館活動をコロナ前に近づけるということが第一歩なのではないかと感じております。ですので、公民館でどのくらいの活動が復活しているのか教えていただければ、今後それを足掛かりに世代間交流や地域のことを協議できるのではないかと感じております。

内田議長 ありがとうございます。それではわかる範囲で結構ですので、中央公民館長お話しただけですか。

公民館長 ありがとうございます。私からはこの協議項目の「世代間交流・地域コミュニティについて」と、鶴岡委員と吉田委員からお話があった件について、まとめて状況をお話ししたいと思います。コロナ禍のなか、新しい生活様式ということで Zoom 等を利用して遠くの人とつながりやすくなり、ある意味ではコミュニティが盛んになった面もありますが、私としては、逆に身近な地域ほど分断が進んでしまったと感じております。例えば地域団体の総会・会議において、出席することを面倒に感じている部分があったように見受けられたときもありましたが、コロナのおかげで、書面会議が多くなり、直接出席しなくても良いという状況を作ってしまいました。このことによって、元のように対面で地区の総会をやろうとした時、逆に直接対面でやらなくていいんじゃないかと、書面会議でも十分ではないかという意見が出るのでは、という不安を感じています。地域のつながりを作っていくためには、人と人が直接顔を合わせてコミュニティを作っていくことが必要だと思っております。このコロナで社会の分断が発生してしまったわけですが、新しい生活様式の良いところを取り入れながらも、これまで以上のコミュニティの形成を、公民館が地域へ働き掛けていくことが一番重要だと思っております。公民館のサークル活動の状況ですが、一昨年の状況と比べますと令和3年度利用率は60%増しになりました。今年の1～2月のまん延防止が解除になった後、公民館については基本的な感染予防、マスク、ソーシャルディスタンス等に努めていただければ、活動制限を

特に設けることはしませんでした。その後、結果としてはクラスターも発生しておりませんし、利用者の方達もきちんと守って活動しています。公民館活動が復活してきているので、令和4年度は更に促進できるとよいと思っております。文化祭については、木更津、君津、袖ヶ浦、富津の4市の動向を確認したところ、やはりどの市も今年は前向きな方向でした。公民館で文化祭を実施するのは文化祭実行委員会ですので、事務局となる公民館といたしましては、やらないのではなくて、やれるようなことを促す、または助言をしていきたいと思っております。

内田議長

ありがとうございました。鶴岡（俊）委員、吉田（裕）委員よろしいですか。
では次に伊藤委員からお話を伺いたいと思います。

伊藤委員

いろいろとお話が伺えて、非常に有意義だと思います。これは私の話となりますが、今年から放課後子ども教室を立ち上げることとなりました。今は保護者が見守りをするという体制でやっていく予定で動いていますが、こども教室を活用しようとする親世代は働きながら子育てをしている方が多くて、見守り活動をその保護者たちで行うことがなかなか難しい状態となっております。放課後こども教室について助言いただくと「シニア世代を頼れば良いのでは」と言っていたのですが、シニア世代をどこで探せばつながれるのか、わからない状況です。鶴岡（俊）委員がおっしゃっていた文化祭が盛り上がるという点、公民館が舞台となって地域がつながる、世代がつながるというのは、本当にそう思います。でも一年に一回行われるお祭りに、みんなが一気に力を注いで、一気に終わるという感じは否めないと思います。私自身が関わっている木更津こどもまつりも、お年寄り等様々な世代の方が本当に楽しんでくれるお祭りなのですが、これもまたここに力を注ぎこんで、一年に一回で終わるものです。そういうのもすごく良いのですが、先程古川委員がおっしゃったように継続的に地域の防災にまでみんながつながれる、又は何か新しいことを立ち上げようとする若い人を多くの方が支えられるような、単発ではなく継続していくにはどうすればいいのだろうという事も考えています。実際に自分の事業は足を使って、人づてを頼って、ご協力いただける方を探していこうと思うのですが、もっともっとそういったことが楽になるといいなと思っております。

内田議長

ありがとうございます。熊本委員お願いします。

熊本委員

すいません。私、この「世代間交流・地域コミュニティについて」をテーマに必死に考えてきたのですが、何にも浮かばないのです。どうしていいのかわからないのです。色々なことを考えてみました。ひとつは、テーマをもう少し具体的に作るのも非常にいいかなと思っております。また、お祭りなどのイベントに色々な人たちが集まって良い雰囲気だとおっしゃっていたと思うのですが、その良いコミュニティを作れるものが何だったのかという事を、是非教えていただきたいと思っています。もしこれから「世代間交流・地域コミュニティについて」推進していくとしたら、ちょっと具体的にこれやっということから広がっていくのかなと思うのですが、私の年老いた頭ではなかなかこれがいいねという案が出てこないのです。ぜひ皆さんのご意見を伺って考えてみたいと思います。

内田議長

ありがとうございます。具体的というとなかなか難しいですね。

熊本委員

場所を作るというのも具体的と言えば具体的ですし、ある人達とか地域の人達がおお！行ってみようじゃないかという雰囲気を作るために何をすればよいかと、私考えてみました。市の職員の方やファシリテーターとか皆を集めて楽しく進めていけるような

人を育てるために、市の若い職員を教育するとかはどうでしょうか。一気に良くすることは難しいでしょうが、ひとつずつやっていけばよいと、そんなことを考えてみましたが、まとまりませんでした。

内田議長
白石委員

ありがとうございます。白石委員お願いします。

今日は多くの団体の方も来ていただいています。またこれとは別にいろいろな団体があると思います。その中でコロナ禍ではありますが、各団体が前向きにいろいろな活動・内容が出来るよう、意見交換できる機会を設けていくことが大事だと思います。熊本委員がおっしゃる様に大きなテーマで考えるのは難しいと思います。木更津市は海も山もあり、人口の密集度も地域によりまちまちで、当然若い人達が求めるものとシニアが求めるもの等についても、価値観が多様になっていると思います。大きな一つのテーマの中で考えるというよりは小さなテーマを挙げてだんだん広げていく方がいいかなと私は思います。その中で今回は公民館がいろいろなイベントを企画していますので、そういうものをきっかけに有志を集めて、キャンプや火おこしなどの行事を行うのはどうでしょうか。今はマッチをつけることもできない子が多いのですが、シニアの方々は木を切ったり火をおこしたり昔ながらの生活の経験がありますので、キャンプに小学生とか小さい子供を連れて行って、シニアの人で日程が合えば触れ合うというのも一つのコミュニティの体験になると思います。木更津市の真里谷キャンプ場は地元なので距離的にも近いですし、ひとつのきっかけとしてそういうものを作って、全体に広げていければと思います。

内田議長
安藤委員

ありがとうございます。安藤委員お願いします。

皆様のお話を伺っていて、思い出したことがあります。私は学童保育と子ども食堂に関する活動をしています。昨日子ども食堂の関係で、コストコさんから一個 3.5kg の大きなウサギのチョコレートを 36 体ご寄附いただきました。私は午後学童保育で働いているため受け取りに行くことができず、学童保育に 36 体のウサギのチョコレートを持ってきてもらいました。それを配るのに、昨日のうちに学童保育まで取りに来れる人を募集しました。それで取りに来た人の車にチョコを運ぶのですが、学童の子どもたちが何も言わなくても、自発的にチョコを取りに来た知らない人の車にどんどん運んでくれたんです。運んでもらった人も、運んだ子どもたちも嬉しそうな姿を見て、今コロナ禍でなかなか対面で活動できない状態ですが、少しでも誰かの役に立ちたい、少しでも誰かと関わりたいという気持ちは 6 歳の子でも 70 歳を過ぎたおばあさんでも誰でも持っているものなんだと感じました。居てくれてありがとう、居てくれて嬉しいというのが、日常に少しでもあれば、今日は一日良い日だったと思えるのかなと思います。今回のテーマについて、本当だったら木更津市をもっと客観的に見て、公民館全体でイベントをやろうといったようなことを言いたかったのですが、コロナ禍の状況で様々な制約・制限があり、大きなことは難しいと感じています。けれど毎日挨拶でも草むしりでも良いから、小さな活動を行い居場所を作っていく、それが社会教育なのではないかと皆さんのお話を聞いていて思いました。ただそうはいつでも、何か形に残らないと社会教育とは何なのかということになりかねないので、各団体が小さなことでも必ず何かの役に立つということを意識しながら、活動方針を決めていくことが大事なのだと思います。でも、私たちの活動の中で、一番分かり易いのが公民館なので、公民館の活動のチラシを見て、コロナ禍ながらもだんだん元に戻ってきていて、ママ友とも話が出来るし、いい感じになってきているのだなと嬉しく思いました。

内田議長 ありがとうございます。佐々木委員お願いします。

佐々木委員 私はあまり公民館に参加したことがありません。ですので、公民館で小さいこどもからシニアの方等幅広い年齢層が利用しているということは、外から見て感じてはいますが、どうやって地域の方が連携しているのか等は、実際に体験していないのでちょっと現状を把握できていないということが、一番の自分の課題だと感じています。そういう活動に参加して顔見知りや知り合いが増えていけば、そういう所から人のつながりが生まれて、「また参加しましょうよ」とか、「こういう所に協力出来るかな」という広がりが出てくるのではないかと思うので、自分の行動をちょっと変えてみないといけないと感じます。現状を知らなかったので、今日公民館のチラシを見て、公民館でこんなにたくさんの活動をしているという事を知り、とても興味がわきました。同時にどれだけの方や世代が、公民館の利用できる内容を知っているのかとも感じました。広報活動もしてくださっていますが、もっともっと知ってもらって、「お友達同士で行ってみよう」ということが増えると良いと感じます。

内田議長 ありがとうございます。これで皆様方のうちご意見をお寄せくださった方々からはお話をうかがえました。ご意見は出ていなくても、今皆様方のお話を聞いて、新たに意見がある方もいらっしゃるのではないかと思います。それでは鶴岡（久）委員お願いします。

鶴岡（久）委員 私も体験したことからの話となりますが、さっきお話に出たまちづくり協議会が主催した防災訓練というものに先日参加をしました。回覧板が回ってきまして、自分たちが避難する道順を調べようとのことでした。全員が参加したわけではなかったのですが、回覧板を見て参加できる方は参加したのだと思います。道順に沿って避難場所に行ったんですが、とても良かったと思いました。終わった後に、防災に関する知識を得るためにお話を聞くとか、そういうことがあればもっとよかったけれども、コロナ禍のため、外で名前を書いて解散という事になってしまいました。そういう事も皆が興味を持って参加できるのではないかなと思います。

内田議長 ありがとうございます。地曳委員お願いします。

地曳委員 中央公民館長がいるなかで大変恐縮なのですが、今の公民館は世代間交流を実践するのは厳しいと私は思っております。なぜかという、若者から壮年の世代が全然利用していないからです。子どもとか若いお母さんとかお年寄りとかは利用しているけれども、全ての世代が利用しているわけではないという実情があります。先程公民館のチラシを拝見しまして、ただチラシを作って周りに配るのではなく、もっと斬新な発想で、もっと利用したいと思うような、そういうものがあると公民館に行く人が増え、各世代の人達が利用して世代間交流につながるのではないかと思います。そういったものとは別に、地域コミュニティを考えると、やはり公民館というものは必要であり、実情としてそういう重要な役割を担っているのですが、非常に難しいとも感じます。私は一番良いのはお祭りだと思っています。地域によってはお祭りがないところもあるかもしれませんが、祭りというのが世代間交流を促したり、地域のコミュニティを作るのに最適ではないかと思っています。だから祭りのある所は祭りを通して地域の活性化を図り、祭りがないところは祭りに代わるようなイベントをやるのが、一番手っ取り早いかなと思っています。

内田議長 ありがとうございます。それでは新たに委員となった方々からもお話を伺いたと思います。まず石渡委員お願いします。

石渡委員 学校は、地域コミュニティの一翼を担いたいという気持ちはあるのですが、ご存知の

ようにコロナの関係でやはり地域の方、特にご年配の方に来ていただくにはリスクがあるという事で、躊躇している部分が多々あります。ですから、まずは学校支援ボランティアの方等から少しずつ出てきていただいているというのが現状です。そこを含めて、最初に教育長がおっしゃっていた学校運営協議会の立ち上げとまちづくり協議会を連動させて、学校に来ていただくという形で、学校も地域コミュニティの一翼を担うということがひとつだと考えています。また公民館の話が出ているのですが、公民館に若い方を集めるという事になると、施設について考えるべきだと思います。お金のかかる話で申し訳なのですが、例えば今年度図書館に耐震工事が入るという事なので、公民館もそういう耐震の工事を入れ、例えばトイレなども新しいもの、明るい感じのものにして、若い方やお子様・子どもが使いやすいようにするといった施設の在り方に多少なりとも変更していく必要があるのではないかと思います。またお金のかかる話ばかりで申し訳ないのですが、若い世代が公民館に足を運ぶこと自体ハードルが高いので、公民館を中心にオンラインのネットワークを構築していく、ネットワークの環境整備というものも必要になってくると考える次第です。中央公民館は今後新しい建物になる予定はありますか？今のところはずっといる予定なのでしょうか？

内田議長
公民館長

ありがとうございます。公民館長お願いします。

交流の関係ですが、地曳委員から難しいのではないかとのご意見をいただきました。私も重々承知しているところもあるのですが、絶望は全くしておりません。今中央公民館前の自習&ワークスペースが39席あるのですが、学生が席の取り合いをするほど盛況です。中央公民館としては、この学生たちに声をかけて、何か一役担ってもらえないかと考えております。例えば、文化祭や地域交流関係のイベントをやるときに「参加してみませんか」と声をかけようかと思案しているところでございます。地域の交流という部分では、一中学区に「寛傳知（かんでんち）」という、新しい地域交流スペースが出来たのをご存知でしょうか。もともとは障害を持ったお子さんを抱えるお母さんたちが立ち上げた組織なのですが、今木更津市内で5つ目となる新しい通学合宿をそこではじめようかと計画をしているところでございます。今までの通学合宿は生きる力をつけるための通学合宿だったのですが、今度の新しい通学合宿は障害者と地域の方と通常の学校に行っている子供達がつながる、人と社会をつなげる通学合宿ができないかと計画しているところであります。また体験活動も本当に重要だと思っております。子供がマスクをずっとして、顔を見たこともなく学校の体験活動がほぼ全部できないという状況のなかで、どこがそれを補っていくかと言えば、公民館だと思っております。できればこの夏に、全公民館で、体験活動、キャンプ、デイキャンプ、火おこし等、そういうものを作って子どもたちの体験活動を増やしていきたいと思っております。

内田議長

ありがとうございます。次に吉田（信）委員お願いします。

吉田（信）委員 まだまだコロナの影響がありまして、「地域コミュニティ」を語る前に、未だ学校内でも子どもたちが一斉に集まることもできていませんし、学校行事などもまだままならない状態です。ようやく今年に入って、なるべくそういうのを従来どおりやっていこうと動き始めました。これまでの話を聞いて、世代を越えて若い人達、高校生を地域活動にぜひ参加させたいと思います。でも実際、今高校生は部活動、アルバイト等に忙しく、なかなかそういう活動に参加できるタイミングがうまくつかめないのではないのかなと思います。そういった、喜んで参加できるような環境づくりができればいいなとは感じました。

内田議長

ありがとうございます。最後になりましたが、佐久間委員お願いします。

佐久間委員

今日「世代間交流・地域コミュニティについて」協議をすると聞きましたので、感じたことをお話しします。青少年相談員は小学校区を単位として5～6人で構成されており、事業やイベントに取り組んでいますが、人数が足りず自分たちだけではやりきれない場合は他の社会教育団体（PTAや青少年補導員等）の協力を得て、子どもたちのために活動（キャンプや少年野球、バスケ・ミニバス等）をしています。20歳から55歳の成人が相談員になれる対象ですので、青少年相談員の活動自体、世代間交流ではないかと考えられるところもあります。また木更津市ではまちづくり協議会が二中学区以外で設置されていますが、そのメンバーは、自治会、青少年団体、社会教育関係団体、消防団、地区のミニバスや少年野球等、あらゆる団体で構成されており、横のつながりを育成する場になっていると感じています。私の住んでいる富来田地区のまちづくり協議会は、8月に納涼祭、10月に武田堰のコスモスフェスティバル、1月には富来田地区だけの元旦マラソン大会に取り組んでいて、特に元旦マラソンは我々相談員が主になって開催するのですが、自治会等さまざまな団体の支援を受けて盛大に開催しています。本当に、横のつながりを強さを感じる場面です。他地区のまちづくり協議会でも他団体との深まったつながりをもっとうまく活用できるようになると、本日のテーマ「世代間交流・地域コミュニティ」というものの解決に少しずつつながっていくのではないかと考えています。まちづくり協議会を構成している団体同士、活動しながら横のつながりをうまく作り、事業を行う中で「世代間交流」という課題も解決していくように機能していくと良いのではないかと、いつも相談員活動をしながら感じているところです。富来田は人口が少なく、役員になる人が大体いつも同じになりがちです。PTAやっている人、相談員やっている人が実は同じ人だったり、ついでに相談員も消防団も兼ねたりとか、そういった方が結構多いです。会議の構成メンバーの変化が乏しく、いつも同じような考えになってしまい、新たな発想・アイデアが生まれにくいのは事実です。そういったところをうまく解消できれば、世代間交流や地域コミュニティがもう少し発展していくのかなと思っています。長くなりましたが、普段の活動から、私が思っていることをお話しさせてもらいました。

内田議長

ありがとうございました。皆様方から一言ずつご意見をいただきましたが、何か言い足りないこととかありますか。

今日、約一時間弱位、皆さんからこのテーマについていろいろと意気込みという形でお話を聞かせていただきました。キーワードはどうしても公民館になりますが、公民館長、頑張ってください。やはり「公民館」がキーワードで「地域のコーディネーターである」ということですね、どうしてもいろいろな世代間交流とかコミュニティとか、あるいはそういったものを作りつなげるといったところで、公民館の力が大きいのではないかと皆さん方のお話を聞いて思いました。例えば昔は、地曳委員がおっしゃった様に、お祭りとかで上の者が下の者に色々と教授して、それが伝統として伝わっていましたが、今は公民館でも空白化した世代があり、その空白の世代というものをいかに引っ張り込んで世代間交流を深め、地域の交流を深めるということが大事なのかなと思いました。そしてやはり学校というものも地域コミュニティには本当に欠かせないものだと考えています。公民館、学校、あるいは自治会も大切な地域を作る団体となります。そしてコミュニティを建設するにあたって、発展のある町・地域になるためには子育て世代の方々を応援することも大切だという事を皆さんのご意見で分かりました。例えば千葉県

流山市は子育て支援など進んでいて、人口もどんどん増えていっていると聞いています。自分がこれから子育てをするにあたって、いろいろといい点があると、みんながその地域のコミュニティの中に入っていきたい、と思うものですので、その辺も含めまして皆さんから本日はよい意見を賜ったので、その意見を生かして教育行政の方に反映していただければと思っております。

それでは次回になりますが、次回のテーマは「社会教育施設のありかたについて」を予定しております。事前にまた事務局より資料が送付されるので、ご確認の上次回に参加頂ければと思います。

それでは最後に（４）その他について事務局よりお願いします。

事務局 君津地方社会教育委員連絡協議会の連絡が入りませんので、入り次第皆様にお伝えしていきたいと思っております。

内田議長 ありがとうございます。これで第1回定例会を終了したいと思います。事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございます。それでは令和4年度木更津市社会教育委員会会議第1回定例会を終了させていただきます。有難う御座いました。